

# Newsletter

Vol.15 2011. 7.13

日本養護教諭養成大学協議会

事務局：岡山大学大学院教育学研究科

高橋 香代

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1

TEL&FAX 086-251-7699

## ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会会長挨拶	1	選挙管理委員会より	5
各種委員会活動報告	2	総会のお知らせ	5
養成大学の展望—北から南—	3	事務局からのお知らせ	5
養成大学の展望 大学院教育	4	編集後記	6
養成教育関連団体からの寄稿	4		



### 協議会会長挨拶

手をつないで確かな一歩を

会長 高橋 香代 (岡山大学)

東日本大震災から3カ月余が過ぎました。津波や余震、原発事故発生という未曾有の災害や事故、その後の対応の遅れや避難の長期化、計画停電など、先の見えない状況が続いています。現場の養護教諭の皆さんは、子どもたちや保護者、教職員の体や心のケアをはじめとする対応で大変だと思います。

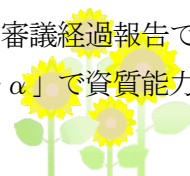
震災発生直後、三木とみ子先生には教え子から、「今は、まず空腹感から、寒さから、そして暗闇から逃れることなど目の前のことで精一杯だ。しかし、それがおちついたら、その後にくる心や体への傷が計り知れない。それをサポートするのが養護教諭です」と心強いメッセージが届きました。岡田加奈子先生は、「大震災後の子どもたちへの対応についての情報・知識」についての情報提供

(<http://chiba-hps.org/archives/177>) を直ちに行ってくださいました。被災地の養護教諭の皆さん

の疲れは、ピークに達しているのではないかと思います。養護教諭の皆さんが今感じている思いや悩み、苦労話を聞かせていただき学ばせていただくことは、養成する立場の我々としてなすべきことの一つではないかと思います。

さて、本大学協議会では、昨年来、中央教育審議会「教員の資質能力向上特別部会」に養護教諭の資質向上策の検討をお願いしてきました。その成果として、特別部会第8回議事録に「養護教諭等についてどうするのかなどのご意見をいただきましたので」と記載されました。このことは、平成23年1月に報告された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（審議経過報告）」の6頁に、「教員養成課程や養成する学校種、職種ごとの丁寧な検討、養成の規模、大学の組織体制の在り方、修士レベルの教育の質の確保」の職種ごとの文言に反映されています。

先日文部科学省初等中等教育局教職員課から、本協議会宛に審議経過報告に対する意見募集の照会がありました。各大学には、改めてメールでこの内容を配信しご意見をいただきます。審議経過報告では、教諭の養成は教育期間「4年+α」で資質能力



を向上させることを展望しています。学校保健推進の中核的役割をもつ養護教諭にとって必要な養成期間のあり方や、現行教育職員免許法の見直し等について、これまでの我々の委員会活動の成果も活かして意見の集約を行いたいと思いますのでご協力をお願いします。また9月の総会には、特別部会委員である高岡信也先生にご講演をいただきます。

震災被害も教員の資質向上の問題も、我々は、会員大学はもちろん、養護教諭をはじめとする教育職員、保護者等の皆様と手をつないで歩んでいきたいと思っています。

## 各種委員会報告

### 「養成制度検討委員会」活動報告

委員長 後藤 ひとみ (愛知教育大学)

昨年度は、前半は9月の養成教育WSにむけた準備を行い、後半はWS参加者の意見をもとに、養成制度に関する会員対象調査の実施について検討しました。この調査は前号でお知らせしたように年度内に発送する予定でしたが、3月11日に東日本大震災があったこと、1月31日に出版された中教審「教員の資質能力向上特別部会」の審議経過報告を受けた教員養成改革が予想されることをふまえて、役員会全体で企画する調査として行うことになりました。現在、特別部会の審議内容を参考にしながら、様々な養成大学からの意見を集約すべく、カリキュラム検討委員会と協力して調査内容の再検討を行っています。この他に、今年度は教員の資質能力向上にかかわる制度に関する情報収集に努め、学習会を行う予定です。今後とも、皆様のご助言とご協力をお願い申し上げます。

### カリキュラム検討委員会活動報告

委員長 岡田 加奈子 (千葉大学)

2010年6月3日(木)の「教員の資質向上」に関する文部科学大臣からの諮問、それを受けての「教員の資質能力向上特別部会」の設置といった社会的動向を受け、本委員会では、昨年度より、養護教諭養成の資質向上に大きな影響を与える教育職員免許法の課題をカリキュラムという視点から、検討しております。具体的には、教職並びに養護に関する科目の枠組みと養護の科目の内容について、一般教員等との比較、本協議会や日本教育大学協会養護部門の研究結果、法律や答申等から分析を行っています。9月の報告までには、新たな時代における養成を見据えた免許法等の提案を目指しております。

さらに今年度は、養成制度委員会と協力し、養護教諭養成教育4年+ $\alpha$ 年の到達度、+ $\alpha$ 年と大きく関係する大学院教育についてのアンケート調査を協議会として実施する予定です。ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

### FD検討委員会の活動報告

委員長 池添 志乃 (高知女子大学)

FD検討委員会では、平成23年度の活動として平成22年度に引き続き、「教職実践演習」に焦点をあてて取り組んでいます。昨年度末には「教職実践演習」の先駆的な取り組みを行っている島根大学の高岡信也教授から「教職実践演習の取り組み」について学ぶ機会を得ることができました。教職実践演習に取り組む上で養護教諭養成課程におけるコアとなる教育実践力および到達すべき行動目標を明確にし、各大学の理念を踏まえながら教職実践演習を展開していくことの必要性を感じました。平成23年度は、その他の「教職実践

演習」について先駆的取り組みを行っている大学へのヒアリングを実施する予定です。その学びを基盤としながら養護教諭として求められる教育実践力、到達目標などを見据えた教職実践演習のあり方についてさらに検討を深めていきたいと考えています。そしてFD検討委員会の2年間の活動成果として、①履修カルテについての取り組み状況の調査結果、②「教職実践演習」について先駆的な取り組みを行っている大学の取組の実態、③コアとなる教育実践力を踏まえた教職実践演習のあり方の視点から総括し、報告書を作成していくようにします。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

## 養成大学の展望

### 大学紹介 北から南

#### 大阪女子短期大学

古角 好美

本学は昭和30年(1955)に開学し、女子を対象に「世に役立つ人材の養成」を教育目標に掲げ、実学を重視し、社会に多くの人材を輩出してきました。さらに、教育目標を具現化し、「思いやりと礼節」、「基礎的実学」、「柔軟な思考」、そして「楽しい生き方」の4つを重視しています。礼節があり、広くて柔らかい考えを持ち、人の気持ちを楽しませ、和ませるような雰囲気の学校環境下において、基礎的な実学を通し、社会に役立つ専門家を育てる教育といえます。

保健科は、開学間もない昭和33年に設置されました。それ以来、養護教諭の養成を永年に亘り行い、現在は人間健康学科と名称変更しても、養護・保健コースでその養成を継続しています。教育目標に則し、学校の保健室において、養護教諭が問題を抱えた来室児童生徒の訴えに対し、思いやりのある対応や援助を適切且つ柔軟に行うことができる専門職として養成し、社会に送り出すという使命をもって日々の教育活動を

展開させています。

さて、本学では、2年間の学びを年次ごとに4区分し、養護教諭を養成するための目標を設定しています。1年前期は「教職実践入門期」、1年後期は「教職実践理解期」、2年前期は「教職実践充実期」、2年後期は「教職実践発展期」となります。この4期の中で学生が習得する教育実践力は、「健康管理力」と「健康教育力」及び「コーディネート力」と位置づけ、今年度後期より短期大学において開講される「教職実践演習」を履修することにより、3つの教育実践力が身につく流れとなっています。教職実践演習では、「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「幼児児童生徒理解や保健室経営など保健管理に関する事項」ごとに到達度目標とその達成度を確認するための軸を立て、適正な自己到達度評価となるよう計画化し授業設計しています。



#### 茨城大学 教育保健教室

齊藤 ふくみ

茨城大学は、3月11日の東日本大震災で被災し、教育学部の卒業式は全体での式を中止し、教室ごとの実施となりました。養護教諭養成課程も余震が続く中、いつもなら袴姿の卒業生が集いますが、全員スーツ姿で出席し1時間程度で終了しました。卒業生の中には、被災地福島に戻った学生も複数おり、正式採用や臨時採用で養護教諭として勤めています。養護教諭としてまれにみる過酷な状況の中での仕事であろうことを案じています。

その後、余震が安定しないままに新年度を迎え、在校生は4月12日より、新入生は入学式を行わずにオリエンテーションのみで5月2日より授業が開始されました。本学の立地条件から辞退者を心配しましたが、定員35名の元気いっぱいの入学生が入ってきました。現在は、大学全体も落ち着き、講堂など修復が遅れている施設はあるものの、通常の学校生活となっていま

す。養護教諭養成課程は、合計 155 名の学生が在籍し、大学院は合計 7 名の院生が在籍しています。

私が本学に赴任して 4 年目になりますが、この間、耐震工事に伴う引っ越し、教員の退職・異動そして震災と様々なことがありました。現在、教育保健教室は教員数 5 名で運営しており、スタッフの補充が進まず大変厳しい状況が続いています。私は、4 年間を一サイクルとして、来年卒業生を送り出してようやく本学での足場ができるような気がしています。

本学の養護教諭養成課程は、長い歴史の中で積み上げてきた伝統があり、カリキュラムも現在のところはこれまでのものを踏襲しており、大きな改革は行っておりません。教員の異動も一段落し、今後は、学生の資質を把握したうえで、4 年間の学部教育のあり方と大学院教育の充実に取り組んでいくことになると思います。また、震災に関連する様々な事柄を受けて、養護教諭を養成するうえで検討すべきことや付加すべきことが出てきました。原発関連の情報も注意深く把握していくことが重要であると考えています。



## 埼玉大学 教育学部学校保健学講座

～現職養護教諭にとって身近な魅力ある

学習の場としての大学院教育～

中下 富子

学校現場で実際に起こっている健康・安全問題を分析する“基礎研究”から問題解決に向けた“応用・実践研究”まで、高度な専門的知識と幅広い研究能力、問題解決能力を備えた教員養成が望まれています。養護実践を研究的な視点から追及すべく大学院教育が、現職養護教諭にとって、より身近な学習の場となる環境が必要と考えます。本学大学院教育は、人間・社会・自然に関する幅広い視野と専門性を身につけ、学校教育に関わる論理的でかつ実践的な研究と教育を行い、研究的力量をもった高度職業人を育成することを目指しています。本学大学院学校教育専攻学校保健学専修は平成 20 年に開設し、今年で 4 年目になりますが、現在、大学院生は 16 名で、うち現職養護教諭の方が 11 名学んでいます。

大学院では講義や演習、調査、実験等の研究・教育を通して、学校現場で実際に起こっている課題の解決の方法を見出すことが可能となると考えます。そのため、大学教員は、基礎研究から教育実践研究に至るまで、大学院生と対話を重ねながら協働的に課題を探索できるようサポートを試みています。

また、大学からストレートに進学する大学院生と現職養護教諭がともに交流し学び合える場を設定できるような環境を整備しています。ともに学び合うことで学習に適度な緊張をもたらし、教育諸領域の課題を現実と密接につなげて研究することができます。また、大学院生自身の研究テーマに関わる研究に加え、人間や社会理解をさらに広げることとなり、大学院生活を送る上での大きな魅力となると考えます。

さらに、大学院課程修了によって専修免許状が取得できるプログラムの提供、及び現職養護教諭が勤務を続けながら就学できる履修環境を整えています。また、夜間開講、週末開講等の開講科目時間の整備、及び 2 年間の標準修業期限を超え 4 年間を上限とする長期履修制度を用いた現職教員が就学する際の物理的要因の緩和を図り、大学院入学への意欲につなげています。

大学院生への学習環境のさらなる充実と、学校現場への情報発信が大学院教育に課せられている局面であると考えます。現職養護教諭などを対象とした研究会、公開講座、免許法認定講習、免許法更新講習などは大学の機能を果すとともに情報発信の場として学校現場と大学をつなぐ重要な橋渡しとなっていると考えます。

## 養護教育関連団体よりの寄稿

### 現職養護教諭からの期待

全国養護教諭連絡協議会会長 堀田美枝子

冒頭にあたりまして、今度の東日本大震災で被害に遭われた貴会員の皆様に心からお見舞い申し上げます。

子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保す

るための方策について審議の後に中教審答申を受け、学校保健安全法が施行されて2年が経過いたしました。子どもの現代的健康課題に、より専門的な視点が求められ、課題解決に向けて養護教諭への期待がより一層大きくなっております。そうした意味でも、18年度から紡いで参りました貴協議会との情報交換や連携が、養護教諭の資質向上を考える上で、今後更に不可欠なものになると考えております。

ところで、本協議会が会員に対して実施しております職務に関する調査の結果、「養護教諭が健康相談を行う上での問題点や悩み」として、40代と50代では、「心の健康問題が増加・多様化している」と答えている養護教諭が多く、20代では、「自己の知識や技術に不安を感じる」と答えている養護教諭が実に7割おりました。現場の中堅養護教諭は、最新の科学的知識を求め、経験浅い養護教諭は、知識や技術習得を望んでいるというこの結果に、今後養成大学と協働で取り組む課題や方向がみえるように感じております。日本の学校保健の大きな特徴の一つは、養護教諭が、学校教育を担う教員として学校保健活動の推進にあたって中核的な役割を果たしていることです。しかし、研修制度についてはその役割を担うだけの充実した内容が保証されていないのが現状です。一般教諭の初任者研修や教職経験者研修は、教育公務員特例法第24条において行われているのに対し、養護教諭の新規採用者研修及び教職経験者研修は、各都道府県において実施されており、研修日数が少なく不十分な状況にあります。そこで、本協議会においては、子どもの心身の健康問題の多様化や養護教諭の役割の拡大に対応した、より体系的な研修を進めるには、教諭と同等の研修内容や日数等の保証について法の整備が必要と考え、国への要望を毎年行っているところです。現場養護教諭の研修意欲を向上させる手立てが資質向上の一步につながると考えます。行政機関や養成大学との連携で研修内容の質的向上が図られることを期待しております。今後ともご支援とご協力をお願いいたします。



最後となりますが、日本養護教諭養成大学協議会の更なるご発展と会員の皆様のご健康を祈念いたします。

## 選挙管理委員会より

選挙管理委員長 北口和美 (大阪教育大学)

各大学の評議員の皆様におかれましては、役員選挙にご協力を頂き頂き有り難うございます。役員選挙は、6月上旬に評議員宛てに役員選挙に関する書類を発送し、6月30日を締め切り(消印有効)としました。既に期日までに投票をして頂いた事と思っております。

7月7日には開票を行い、開票結果に基づき上位10名を当選者といたします。当選者には文書で通知を致しますので、承諾について文書でご回答ください。なお、当選者で辞退者が出た場合は、次点の方から順に繰り上げて当選者とし、その旨を文書で通知いたします。8月上旬には会長と役員会へ選挙結果を報告し、会員大学の皆様には9月2日(金)の2011年度総会において公表を致します。

なお、選挙に関するお問い合わせは、選挙管理委員長へお願い致します。

連絡先 e-mail : [kitakazu@cc.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:kitakazu@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)

## 事務局からのお知らせ

### 総会のご案内



中央教育審議会特別部会において、教員の資質能力の総合的な向上方策について検討が進められています。フォーラムでは、審議会委員である高岡先生からその動向について講演いただいた後、高橋会長を中心に養護教諭養成としての課題を共有できるよう協議会を予定しています。

会員校の皆様におかれましては、ご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

4月に配付した参加申込用紙・総会委任状をまだご提出いただいていない会員校は、8月1日(月)までに事務局までお送りください。

庶務担当理事 鈴木裕子(国士舘大学)

## 2011年度総会および

### 養成教育フォーラムの開催について

- |   |
|---|
| 1. 日時: 2011年9月2日(金) 10:00~16:00                 |
| 2. 場所: キャンパス・イノベーションセンター<br>国際会議室(東京都港区芝浦3-3-6) |
| 3. 内容   |
| 午前 2011年度総会、委員会報告<br>(昼食時に情報交換を予定)              |
| 午後 養成教育フォーラム<br>講演「教員養成改革の動向」                   |

## 2011年度

### ホームページ運営企画について

本協議会ホームページの「<http://www.jyogo.jp/>」、みなさまの「お気に入り」の中に入れていただいていますでしょうか。まだの方は、どうぞ「お気に入り」に追加していただき、随時、気軽に利用してくださいませよう、よろしくお祈り申し上げます。

さて、本年度はホームページ上では、教員養成に関する最新情報や社会的動向を受けて本協議会が組織としてどのような取り組みを行なっているのかを、積極的にお知らせしたいと考えております。また、各委員会の会議の様子や委員会報告もHP上で閲覧をできるようにしたいと検討しています。

本ホームページに関しては、これまで以上に会員大学のみなさまのネットワークづくりに貢献できるよう努めてまいります。ホームページを通し、養護教諭養成に深く関わる関係機関や研究団体とも相互に連携を深め、お役に立つように、運営企画に工夫したいと思っております。どうぞ、今後とも、ご協力をお願い申し上げます。

今野 洋子(北翔大学)

## 会計よりお願い

今年度から会計業務全般を中桐佐智子理事より引き継ぎました。皆様からいただいた貴重な会費をこれまで同様、大切に管理してまいりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

2011年度5月現在の会員校は、新たに4大学を迎えて、短大13、大学92の105大学となりました。この他にも新たに養護教諭養成を始めている大学をご存じでしたら、是非とも本会をお勧めいただくとともに、事務局にもご一報下さいますようお願いいたします。



下村淳子(愛知学院大学)

## ★ ☆ 編集後記 ★ ☆

震災から早3ヶ月が経過しました。被災地域の先生方、日々お疲れ様です。この間、地震、津波から原発の問題、復興へと力強く動いている日本中、世界中の人々。未来を担う子どもたちの「からだところ」を最優先した支援策に知恵を出し合いたいと思います。

さて、養護教諭養成も時代と共にその教育内容を大きく見直す時期へとさしかかりました。本協議会の各種委員会の動向を見守っていただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければと思います。

今回から新たに、養護教育関連団体からの寄稿のページを設けました。第1回目は全国養護教諭連絡協議会会長堀田先生にお願いしました。今後も関連団体との連携を強化した紙面を工夫していきたいと思います。

ご執筆くださいました埼玉大学中下先生、茨城大学斉藤先生、大阪女子短期大学古角先生、有難うございます。

9月の総会では、みなさまとの再会を楽しみにしております。

大原 榮子(名古屋学芸大学短期大学部)

櫻田 淳(埼玉県立大学)



日本養護教諭養成大学協議会ニューズレターVol.15

発行 日本養護教諭養成大学協議会

編集責任者 高橋 香代(岡山大学)

E-mail: [kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp)

連絡は月・火・木にお願いします。